

国家資格キャリアコンサルタント試験合格体験記

2017. 3.26 Y.T. (福岡県在住)

<経過>

国家資格試験の第2回目(12月)を受験

9月から学科試験と論述試験を準備

11月に1級技能士の会の2級技能検定実技試験対策講座に参加

<対策>

学科：国家資格化後、これまで使っていた書籍が受験対策に適していないと思い、1級技能士の会発行の「キャリアの青本」と「別冊キャリアの赤本」にある2級技能検定対策用テキストを活用。

論述：国家試験の過去問が少なく、解答例がないため、第1回試験の過去問を制限時間内に自己流で解答を作る

面接：1級技能士の会の2級技能検定対策に参加。他に他団体実施の実技対策にも参加。

<感じたこと>

学科：国家資格キャリアコンサルタント試験と2級技能検定の学科試験の難易度は、ほぼ同じと判断したため、2級技能検定士の過去問を解くことで、時間配分を身につけた。

論述及び面接：受験機関によって、重視している内容がやや異なっていると感じる。初学者の方は、学んできた理論や技術が合う団体の試験を受験すると、違和感がないと思う。実務経験のある方は、その経験が団体の試験の特徴と合っていれば馴染みやすいと思う。

ロールプレイに関して：15分間の時間配分として、「関係構築」「CL視点の問題把握」で終わってしまった。CL経験の振り返りを重視する面接試験の場合は、特に「傾聴」を重視し、レポートを形成する。

そのうえで内容を要約し、CL視点の問題を把握していることをアピールする位に伝える。

(受験していないので、あくまで想定ですが)

他団体の試験の場合、CL了承の下でCC視点の問題点をロープレで伝えるべきと思う。

ひとことでも問題解決への展開につながられたらベターであると思う。

<面接試験の状況>

事例等の説明は、試験室に入った後、注意事項の説明後に配付される、CLの略歴は、記載されている用紙を読むことで初めて分かる

導入・基本的態度では、予め、CLの略歴は考えず、オープンクエスチョンでCL自身にこれまでの経験、気になっていることを語ってもらえるよう、穏やかな対応を意識した。CLの経験に共感を示し、CLが望む状況を話してもらい、

CLが訴える問題点に焦点を当てるようにしようとしたが、制限時間がきて、具体的展開に乏しい気がした。

口頭試問は、良かった点と悪かった点、CLの主訴、面接が続くとするとどうしたいかの3点と、もし資格取得したら、どう活かしていきたいかを問われた。

良かった点は、CLがこれまでの経験を話しやすいよう、かかわり行動や特に傾聴、言い換えに心掛けた。また、CLが初見時で話す内容から、次第により具現化した内容の主訴（CL視点）にCLが気づいていけるよう、CL自ら語っていけるように話を進めた点。

悪かった点は、CC視点の主訴やその解決策などに話を展開する間もなく、時間が終わり、時間のほとんどを傾聴に費やしてしまった点。

そのため、口頭試問の時に、CC視点ではあるものの、CLが抱える主訴とその問題を解決するためのいくつかの案を述べた。

<振り返って>

実技試験の面接試験前に参加した「1級技能士の会」の講座は、それまで受講していた他団体の対策講座と違い、試験対策のノウハウは勿論のこと、ロープレの雰囲気が高く、和やかな感じを覚えた。

話の流れが行き詰まったりしても、有資格者によるフィードバックの時のフォローがとても参考になり、有り難く感じた。ロープレに対する不安や凝り固まった思考を、CCとCL視点に分類し、どちらの視点も否定せずに具体的展開に進める方法論を聞いた事がたいへん役立った。

今回のキャリアコンサルタント試験は、2級技能検定と違ってCC視点の話や解決策の内容はなかったが、実際の面談場面では、非常に有用となるので、受講することは、たいへん意義があった。

以上